

鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について(2020年7月)

	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼	
発表項目	メタルワゴン	住友商事グローバルメタルズ	阪和興業	兼松トレーディング	
1. 需給動向(景況感)	(仕売り分厚) 現状、船荷売り分厚はコロナの影響で不透明な部分が多いが、荷動きは非常に停滞している。特に4月までは3月までの受注残である程度の中高単を確保していたものの、5月以降は各社出荷量が前年同月比3割程度減っており、自動車分野向けの取引が多い特約品はこれ以上への減少。今後、コロナの価格の影響も含まれて不透明感が強く、各社の出荷残は5割程度は残存。 特約品の中板価格は、コラム・中板角において弱含み傾向が続いているが、丸鋼管に関しては一部感入れ感もあり、今後の動向に注視。 メーカーの販促価格も、特に溶協品の角鋼管の一部弱含みしている。高単品品においては、高単品より高単品メーカーへは更なる値上げが期待されるも、現状の市況感においては実施が難しく、市況弱含みへの牽制という状況。	2020年5月の薄板、高単品は、前月比で10.7千トン増の446千トンとなった。5月大型連休による稼働削減で前月の増加分が、今年度も前月の稼働削減の影響を受けている。5月の高単品は、前月比で3.6千トン増の98万7千トン、コイルセンターは前月比で2万2千トン増の150万3千トンとなった。高単品の稼働削減に伴って、コイルセンターの在庫増加(5万8千トン増)が目立つ結果となっている。要として自動車メーカーを初め最終消費者の仕入が大きい影響を及ぼしている。需要回復はブレースによる購入数減少を減少させるが、高単品は仕入の回復を促すことは難しい。特にコイルセンターの在庫は7月以降の150万トン台であり、急回復が期待されている。仕入料金は407万円となり、前月比で約3.6万円より0.51ポイント増加している。参考として前年同月比で比較してみると、メーカー在庫は12万トンの増と減差効果が目立っているが、期間、コイルセンターは8万トンの増と増減効果がある。 5月の自動車向け内販額は、21万8千トン(前年同月比44.9%減)と8ヶ月連続で前年対比マイナスとなった。乗用車は16万1千トン(同46.8%減)、トラックは4万2千トン(同36.2%減)となった。5月の12月以降の機器の国内出荷金額は、1,941億円(前年同月比8.8%減)と8ヶ月連続のマイナスとなった。しかし6月以降の国内出荷金額は、3,078億円、前年同月比105.8%と9ヶ月ぶりのプラスとなった。2000年以降、車中で3,000億円を超えるのは、初めてのことである。要因としては、緊急事態宣言解除以降の需要回復に加え、キャブユニット、ボディー部品(6月末終了)の駆け込み需要、特別仕様が急ぎの支店なども後押しし、民生用電機機等全体で需要増がみられる。また、全国的に気温が高くなるとともに、調理家電の買い控えも推察されている。国内交通省より発表された5月の新設住宅着工戸数は前年比▲12.3%(コンセンサス:同▲15.0%、レンジ:▲18.3%)、▲10.1%、季節調整値(年率換算)では80.7万戸(コンセンサス:78.5万戸、レンジ:74.4万戸~83.7万戸)と、市場予想を上回る結果となった。	5月末の全国厚板在庫は381千トンの前月比7.962トンの減少を受け、在庫は前月比で10.1%減となった。9か月連続の在庫減少となった。在庫率は41%程度であり、前月比33.1ポイント上げの294.0%と、適正在庫率と見られる。200%を依然大きく上回っている。コロナ禍による新規投資案件減とオリビック延期の影響もあって、建築関連の案件減となり、建築業界への稼働料は低調のまま、建機も30~40%の生産減が続いている。市中材の荷動きは引き続き低調、よって店売り卸放価格は弱含みとなっている。	5月の需給需要素(換算鉄管)は、前年同月比4.6%減の36万58千トンだった。マイナスは2ヶ月連続、入札模建案は増えたが、中小が数値を下げた。構造別で見ると、鉄管(S造)は、6.4%減の35万2千トン、鉄管鉄筋(S造)は、8.7%減の1万3800トンだった。S造は2ヶ月連続のマイナス、SRC造は2ヶ月ぶりのプラスと対照的な結果となった。規模別では、店売りの市場に回し、中規模建築物(着工)は前月比2千平方メートル減の15万4000トンと低減。一方でメーカー直送が多い大規模建築物(同2千平方メートル以上)は6.5%増の21万1200トンと盛り返した。大規模のうち、再開発事業が占める割合は前月より、拡大(全体と占める割合は38.3%で、前年同月より、11.1ポイント上昇)。	5月の需給需要素(換算鉄管)は、前年同月比4.6%減の36万58千トンだった。マイナスは2ヶ月連続、入札模建案は増えたが、中小が数値を下げた。構造別で見ると、鉄管(S造)は、6.4%減の35万2千トン、鉄管鉄筋(S造)は、8.7%減の1万3800トンだった。S造は2ヶ月連続のマイナス、SRC造は2ヶ月ぶりのプラスと対照的な結果となった。規模別では、店売りの市場に回し、中規模建築物(着工)は前月比2千平方メートル減の15万4000トンと低減。一方でメーカー直送が多い大規模建築物(同2千平方メートル以上)は6.5%増の21万1200トンと盛り返した。大規模のうち、再開発事業が占める割合は前月より、拡大(全体と占める割合は38.3%で、前年同月より、11.1ポイント上昇)。
2. 需要業動向	(建築・土木)5月の新設住宅着工戸数は、前年同月比12.3%減の80.7万戸となり、前年同月比80.7万戸と、市場予想を上回る結果となった。 2020年5月の自動車向け内販額は、21万8千トン(前年同月比44.9%減)と8ヶ月連続で前年対比マイナスとなった。乗用車は16万1千トン(同46.8%減)、トラックは4万2千トン(同36.2%減)となった。5月の12月以降の機器の国内出荷金額は、1,941億円(前年同月比8.8%減)と8ヶ月連続のマイナスとなった。しかし6月以降の国内出荷金額は、3,078億円、前年同月比105.8%と9ヶ月ぶりのプラスとなった。2000年以降、車中で3,000億円を超えるのは、初めてのことである。要因としては、緊急事態宣言解除以降の需要回復に加え、キャブユニット、ボディー部品(6月末終了)の駆け込み需要、特別仕様が急ぎの支店なども後押しし、民生用電機機等全体で需要増がみられる。また、全国的に気温が高くなるとともに、調理家電の買い控えも推察されている。国内交通省より発表された5月の新設住宅着工戸数は前年比▲12.3%(コンセンサス:同▲15.0%、レンジ:▲18.3%)、▲10.1%、季節調整値(年率換算)では80.7万戸(コンセンサス:78.5万戸、レンジ:74.4万戸~83.7万戸)と、市場予想を上回る結果となった。	5月の自動車向け内販額は、21万8千トン(前年同月比44.9%減)と8ヶ月連続で前年対比マイナスとなった。乗用車は16万1千トン(同46.8%減)、トラックは4万2千トン(同36.2%減)となった。5月の12月以降の機器の国内出荷金額は、1,941億円(前年同月比8.8%減)と8ヶ月連続のマイナスとなった。しかし6月以降の国内出荷金額は、3,078億円、前年同月比105.8%と9ヶ月ぶりのプラスとなった。2000年以降、車中で3,000億円を超えるのは、初めてのことである。要因としては、緊急事態宣言解除以降の需要回復に加え、キャブユニット、ボディー部品(6月末終了)の駆け込み需要、特別仕様が急ぎの支店なども後押しし、民生用電機機等全体で需要増がみられる。また、全国的に気温が高くなるとともに、調理家電の買い控えも推察されている。国内交通省より発表された5月の新設住宅着工戸数は前年比▲12.3%(コンセンサス:同▲15.0%、レンジ:▲18.3%)、▲10.1%、季節調整値(年率換算)では80.7万戸(コンセンサス:78.5万戸、レンジ:74.4万戸~83.7万戸)と、市場予想を上回る結果となった。	5月の自動車向け内販額は、21万8千トン(前年同月比44.9%減)と8ヶ月連続で前年対比マイナスとなった。乗用車は16万1千トン(同46.8%減)、トラックは4万2千トン(同36.2%減)となった。5月の12月以降の機器の国内出荷金額は、1,941億円(前年同月比8.8%減)と8ヶ月連続のマイナスとなった。しかし6月以降の国内出荷金額は、3,078億円、前年同月比105.8%と9ヶ月ぶりのプラスとなった。2000年以降、車中で3,000億円を超えるのは、初めてのことである。要因としては、緊急事態宣言解除以降の需要回復に加え、キャブユニット、ボディー部品(6月末終了)の駆け込み需要、特別仕様が急ぎの支店なども後押しし、民生用電機機等全体で需要増がみられる。また、全国的に気温が高くなるとともに、調理家電の買い控えも推察されている。国内交通省より発表された5月の新設住宅着工戸数は前年比▲12.3%(コンセンサス:同▲15.0%、レンジ:▲18.3%)、▲10.1%、季節調整値(年率換算)では80.7万戸(コンセンサス:78.5万戸、レンジ:74.4万戸~83.7万戸)と、市場予想を上回る結果となった。	5月の自動車向け内販額は、21万8千トン(前年同月比44.9%減)と8ヶ月連続で前年対比マイナスとなった。乗用車は16万1千トン(同46.8%減)、トラックは4万2千トン(同36.2%減)となった。5月の12月以降の機器の国内出荷金額は、1,941億円(前年同月比8.8%減)と8ヶ月連続のマイナスとなった。しかし6月以降の国内出荷金額は、3,078億円、前年同月比105.8%と9ヶ月ぶりのプラスとなった。2000年以降、車中で3,000億円を超えるのは、初めてのことである。要因としては、緊急事態宣言解除以降の需要回復に加え、キャブユニット、ボディー部品(6月末終了)の駆け込み需要、特別仕様が急ぎの支店なども後押しし、民生用電機機等全体で需要増がみられる。また、全国的に気温が高くなるとともに、調理家電の買い控えも推察されている。国内交通省より発表された5月の新設住宅着工戸数は前年比▲12.3%(コンセンサス:同▲15.0%、レンジ:▲18.3%)、▲10.1%、季節調整値(年率換算)では80.7万戸(コンセンサス:78.5万戸、レンジ:74.4万戸~83.7万戸)と、市場予想を上回る結果となった。	
3. 輸出入動向	2020年5月度鋼管輸出 輸出総額: 2万6,512トン(前月比+14.2%) 中国向け輸出: 2万3,233トン(前月比+16.4%) 2020年5月度鋼管輸入 輸入総額: 1,220トン(前月比▲18.8%) 中国向け輸入: 1,190トン(前月比+16.3%)	2020年5月の薄板、高単品は、前月比で10.7千トン増の446千トンとなった。5月大型連休による稼働削減で前月の増加分が、今年度も前月の稼働削減の影響を受けている。5月の高単品は、前月比で3.6千トン増の98万7千トン、コイルセンターは前月比で2万2千トン増の150万3千トンとなった。高単品の稼働削減に伴って、コイルセンターの在庫増加(5万8千トン増)が目立つ結果となっている。要として自動車メーカーを初め最終消費者の仕入が大きい影響を及ぼしている。需要回復はブレースによる購入数減少を減少させるが、高単品は仕入の回復を促すことは難しい。特にコイルセンターの在庫は7月以降の150万トン台であり、急回復が期待されている。仕入料金は407万円となり、前月比で約3.6万円より0.51ポイント増加している。参考として前年同月比で比較してみると、メーカー在庫は12万トンの増と減差効果が目立っているが、期間、コイルセンターは8万トンの増と増減効果がある。 5月の自動車向け内販額は、21万8千トン(前年同月比44.9%減)と8ヶ月連続で前年対比マイナスとなった。乗用車は16万1千トン(同46.8%減)、トラックは4万2千トン(同36.2%減)となった。5月の12月以降の機器の国内出荷金額は、1,941億円(前年同月比8.8%減)と8ヶ月連続のマイナスとなった。しかし6月以降の国内出荷金額は、3,078億円、前年同月比105.8%と9ヶ月ぶりのプラスとなった。2000年以降、車中で3,000億円を超えるのは、初めてのことである。要因としては、緊急事態宣言解除以降の需要回復に加え、キャブユニット、ボディー部品(6月末終了)の駆け込み需要、特別仕様が急ぎの支店なども後押しし、民生用電機機等全体で需要増がみられる。また、全国的に気温が高くなるとともに、調理家電の買い控えも推察されている。国内交通省より発表された5月の新設住宅着工戸数は前年比▲12.3%(コンセンサス:同▲15.0%、レンジ:▲18.3%)、▲10.1%、季節調整値(年率換算)では80.7万戸(コンセンサス:78.5万戸、レンジ:74.4万戸~83.7万戸)と、市場予想を上回る結果となった。	5月の自動車向け内販額は、21万8千トン(前年同月比44.9%減)と8ヶ月連続で前年対比マイナスとなった。乗用車は16万1千トン(同46.8%減)、トラックは4万2千トン(同36.2%減)となった。5月の12月以降の機器の国内出荷金額は、1,941億円(前年同月比8.8%減)と8ヶ月連続のマイナスとなった。しかし6月以降の国内出荷金額は、3,078億円、前年同月比105.8%と9ヶ月ぶりのプラスとなった。2000年以降、車中で3,000億円を超えるのは、初めてのことである。要因としては、緊急事態宣言解除以降の需要回復に加え、キャブユニット、ボディー部品(6月末終了)の駆け込み需要、特別仕様が急ぎの支店なども後押しし、民生用電機機等全体で需要増がみられる。また、全国的に気温が高くなるとともに、調理家電の買い控えも推察されている。国内交通省より発表された5月の新設住宅着工戸数は前年比▲12.3%(コンセンサス:同▲15.0%、レンジ:▲18.3%)、▲10.1%、季節調整値(年率換算)では80.7万戸(コンセンサス:78.5万戸、レンジ:74.4万戸~83.7万戸)と、市場予想を上回る結果となった。	5月の自動車向け内販額は、21万8千トン(前年同月比44.9%減)と8ヶ月連続で前年対比マイナスとなった。乗用車は16万1千トン(同46.8%減)、トラックは4万2千トン(同36.2%減)となった。5月の12月以降の機器の国内出荷金額は、1,941億円(前年同月比8.8%減)と8ヶ月連続のマイナスとなった。しかし6月以降の国内出荷金額は、3,078億円、前年同月比105.8%と9ヶ月ぶりのプラスとなった。2000年以降、車中で3,000億円を超えるのは、初めてのことである。要因としては、緊急事態宣言解除以降の需要回復に加え、キャブユニット、ボディー部品(6月末終了)の駆け込み需要、特別仕様が急ぎの支店なども後押しし、民生用電機機等全体で需要増がみられる。また、全国的に気温が高くなるとともに、調理家電の買い控えも推察されている。国内交通省より発表された5月の新設住宅着工戸数は前年比▲12.3%(コンセンサス:同▲15.0%、レンジ:▲18.3%)、▲10.1%、季節調整値(年率換算)では80.7万戸(コンセンサス:78.5万戸、レンジ:74.4万戸~83.7万戸)と、市場予想を上回る結果となった。	
4. 海外市場動向	<油井管> 油井管は、コロナの影響を受け、米国の掘削リグカウンは20年前の油井管の400基を更に下回り、200基に突入、全世界的に需要が激減しており、油井管市況は下落傾向が顕著であり、回復までは時間を要する見通し。 <ラインパイプ> 油井管同様、コロナの影響を受け、軒並みプロジェクトの延期・中止が顕著している。需要面での落ち込みが激しく、海外メーカーも一旦いったオーダバックロクが懸念され、厳しい状況が続いている。	世界鉄鋼協会はまとめた世界64カ国・地域の5月の粗鋼生産量(速報値)は、前年同月比8.7%減の1億4,487万トンだった。一方、中国で公共投資等の景気が回復し、粗鋼生産量は同4.2%増の9,227万トンと1カ月前当りの粗鋼生産量は過去最多を更新。 中国を除く主要生産国では依然として減少幅も前月より拡大している。中国の需要も戻り始め、ASEANを中心とした市場も回復している。	世界鉄鋼協会はまとめた世界64カ国・地域の5月の粗鋼生産量(速報値)は、前年同月比8.7%減の1億4,487万トンだった。一方、中国で公共投資等の景気が回復し、粗鋼生産量は同4.2%増の9,227万トンと1カ月前当りの粗鋼生産量は過去最多を更新。 中国を除く主要生産国では依然として減少幅も前月より拡大している。中国の需要も戻り始め、ASEANを中心とした市場も回復している。	世界鉄鋼協会はまとめた世界64カ国・地域の5月の粗鋼生産量(速報値)は、前年同月比8.7%減の1億4,487万トンだった。一方、中国で公共投資等の景気が回復し、粗鋼生産量は同4.2%増の9,227万トンと1カ月前当りの粗鋼生産量は過去最多を更新。 中国を除く主要生産国では依然として減少幅も前月より拡大している。中国の需要も戻り始め、ASEANを中心とした市場も回復している。	
5. トピックス					

鉄鋼流通問題懇談会（2020年7月）

発表者 発表項目	メーカー J F E スチール
1. 需給動向（景況感）	<p>（国内）・新型コロナウイルス（COVID-19、以下新型コロナウイルス）を受け、国内経済は大きな影響を受けた。6月の日銀短観では企業の景況感を表す業況判断指数（DI）が大企業・製造業で▲3.4と前回3月調査から▲2.6ポイントの6期連続の悪化となった。</p> <p>20年度の設備投資計画は大企業では前年度比+3.2%となったが、今後の環境次第によるため、不透明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家計部門についても5月の小売業販売額が前年同月比▲1.2.5%と3か月連続のマイナス、6月の自動車販売も同▲2.2%となるなど、各分野で新型コロナウイルスの影響を受けたとみられる。 ・製造業部門は4月の自動車生産が前月比で大幅減（▲4.6%）、5月の機械受注実績は2ヶ月連続の前月比減少となった。 ・建築部門では5月の全建築物建築着工床面積が9ヶ月連続の前年同月比減となった。 <p>（海外）・中国では経済活動が再開され、主要指標は持ち直している。5月の工業生産は2か月連続で前年を上回るなど国内需要が下支え。米国は経済活動が徐々に再開され、感染拡大や米中間の貿易摩擦の再燃等のリスクを抱える。</p> <p>ASEAN諸国もインドネシアは小幅なマイナス成長（▲0.3%）を見込むが輸出・観光への依存度が高いタイは大幅なマイナス成長の見込み（▲7.7%）など、国によって影響が異なる。</p> <p><国内鉄鋼需給></p> <ul style="list-style-type: none"> （生産）・20年6月の粗鋼生産は560万t（前年同月比▲3.6%）で4か月連続の減少となった。 （出荷）・20年5月の普通鋼国内向け出荷は264万トン（前年同月比▲2.9%）で2ヶ月連続の減少。輸出向け出荷も155万トン（同▲2.0%）と2ヶ月連続の減少。 （在庫）・5月末の普通鋼鋼材国内向け在庫は593万トン（前月比+14.1万トン）、3ヶ月ぶりの増加。 ・5月末の薄板3品在庫は446万トン（同▲16万トン）、3ヶ月ぶりに増加。 ・5月末の厚板シャワー在庫は38万トン（同▲1万トン）。9ヶ月連続で減少。
2. 需要産業動向	<p>〔建築〕・5月の新設住宅着工戸数は6.4万戸（前年同月比▲1.2%）で11ヶ月連続の減少。分譲、持家・貸家ともに減少。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非住宅着工床面積は379万㎡（同+4%）で前月の減少から再びの増加。鉱工業用で増も、製造業・商業・サービス業等で減。 <p>〔自動車〕・6月の国内販売は32.2万台（前年同月比▲2.2%）で9ヶ月連続の減少。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月の完成車輸出は12.0万台（同▲6.6%）で8ヶ月連続の減少。北米を中心に減。 ・4月の四輪生産は43.9万台（同▲4.6%）と大幅減。 <p>〔造船〕・6月の新造船受注量は34万GT（前年同月比▲5.2%）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20年6月末の手持工事量は1,443万GT（同▲3.8%）と6ヶ月連続の減少。
3. 輸出入動向	<p>〔輸出〕・5月の全鉄鋼輸出は250万トン（前年同月比▲1.8%）で2ヶ月連続の減少。主にアジア向けで減少。</p> <p>〔輸入〕・5月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は38万トン（前年同月比▲1.7%）で2ヶ月連続の減少。</p> <p>韓国は2ヶ月連続の減少、中国は2ヶ月連続の増加、台湾は2ヶ月ぶりの減少。</p>
4. 海外市場動向	<ul style="list-style-type: none"> ・5月の世界粗鋼生産は日本・米・欧・インド等で1億4,878万トン（前年同月比▲9%）となった。 ・5月の中国粗鋼生産は9,227万トン（同+4%）と過去最高を記録、日当たりでは298万トン。 ・6月の中国鋼材輸出は370万トン（同▲3.0%）。3か月連続で前年同月比減。前月比でも3か月連続減